

21 日間賀島－師崎層群

日間賀島は、知多半島南端から 3 km ほど東に位置する南知多町の島で、三河湾国定公園に含まれています。全島に師崎層群最下部の日間賀層が分布しています。以前は島の南岸に沿って凝灰質な砂



図 1 日間賀島東端の露頭シルト岩砂岩互層

岩と泥岩の互層が見られる露頭が続いていましたが、コンクリートや板で覆われ、南岸の露頭は観察しにくくなっています。



図 2 日間賀島地形図（地理院地図から作成）

日間賀島の中下部は主に凝灰質の細・粗粒砂岩と凝灰質砂岩・凝灰質泥岩の互層，上部は凝灰質泥岩と凝灰岩あるいは凝灰質砂岩の互層からなっています。走向は $N40\sim 80^{\circ} E$ で北傾斜を示しており，西に行くほど上位の地層が見られます。現在，観察しやすいのは島の東端と西港南および北港付近です。島の東端付近は凝灰質な砂岩泥岩互層で，スランプ構造や断層も見られます。西港付近では厚い凝灰質砂岩が見られ，粗粒砂岩からは *Macoma-Lucinoma* 群集に含められる貝類化石が報告されています（SHIBATA, 1977）。*Macoma* はニッコウガイ科，*Lucinoma* はツキガイ科の二枚貝です。この付近以外では化石の産出はあまり多くありません。貝化石などから堆積した海の深さは 200m 程度と推測されています（SHIKAMA & KASE, 1976 や SHIBATA, 1977）。産出化石は杉浦（1972）などに詳しく紹介されています。北港付近では層厚が約 1.5m の軽石質凝灰岩の露頭が見られます。この地層が下位の地層を侵食していることから，この火山灰は降下火山灰ではなく海底を流下して堆積したものと考えられています。軽石質凝灰岩から，その年代は 1790～1700 万年前頃と知られ，火山灰が噴出した時代に近い値と考えられています。炭化木を含んでいることから，陸上の火山噴出物が起源で，師崎層群の軽石質凝灰岩は，瑞浪層群明世層狭間部層（約 1780 万年前）の火山碎屑物が海底を流下して堆積したと考えられています（古川ほか，2023）。



図 3 東部で見られるスランプ構造や断層→



図4 東端付近のシルトや凝灰岩



図5 図4地点で採取した風化した火山灰？



図6 西港南方の大露頭 凝灰質砂岩



図7 西港南方の凝灰質砂岩とシルトの互層



図8 西港付近 厚い凝灰質砂岩層

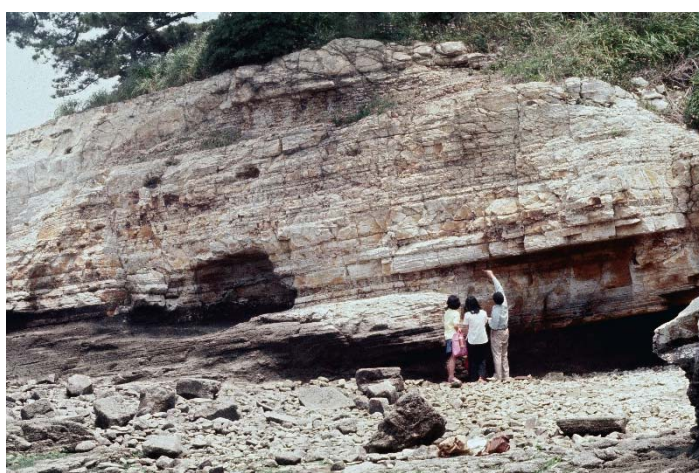


図9 1973年当時の南岸の様子（右端は竹原平一先生）

参考・引用文献

- 古川邦之・谷 健一郎・金丸龍夫・星 博幸, 2023, 中新統, 師崎層群と瑞浪層群に含まれる軽石質凝灰岩の対比. 地質雑, 129 (1), 325-340.
- 村松憲一, 2019, 愛知県の地質とジオサイト. 189 p.

SHIBATA,H.,1977, Miocene mollusks from the Southern part of Chita Peninsula, Central Honshu.

Bull. Mizunami Fossil Mus. 4, 45-53.

SHIKAMA,T. and KASE, T., 1976, Molluscan fauna of the Miocene Morozaki Group in the southern part of Chita Peninsula, Aichi Prefecture, Japan. *Sci. Rep. Yokohama National Univ., Ser., II*, 23, 1-25.

杉浦正巳, 1972, 日間賀島の化石. 31p.

※ 日間賀島へは師崎港から高速船が出ています。

【村松憲一】